



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2014-2015年度 R | 会長 ゲイリー C.K. ホアン



第2590地区 ガバナー
大野 清一

- 会長 山田 正憲
- 会長エレクト 江森 国一
- 副会長 天野 公史
- 副会長 鴻 義久
- 幹事 植田 清司
- 副幹事 朝日 達夫
- 会計 渡邊 淳
- 副会計 白井 康夫
- S A A 小山市 康
- 副 S A A 長井 章
- 副 S A A 青柳 紀
- クラブ会報 竹山 洋



写真提供 小池将夫会員

- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン
- 創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** kerc@beach.ocn.ne.jp

2014-2015年度 第33週報 No. 1874 2015年(平成27年) 3月6日 第1874回例会記録 3月13日発行

司会 朝日 達夫 副幹事

点鐘 山田 正憲 会長

斉唱 「君が代」「奉仕の理想」

四つのテスト 角田 伯雄 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)

ゲスト紹介 山本 光広 様 (入会候補者)
吉川奈緒美 様 (入会候補者)

ビジター紹介 神奈川県 R C 金野 克佐 様
横浜西 R C 安藤 竜一 様
横浜西 R C 吉備 カヨ 様

誕生日祝 大橋 秀行 会員 (3月8日)

会長報告 山田 正憲 会長

- ・地区より2017-18年度のガバナーノミニ告知が来ております。当地区指名委員会は、2017-18年度ガバナーノミニ候補者として湯川孝則(ゆかわ たかのり)氏(横浜西RC)を指名。他に候補者の推薦がないため、告知と同時に3月2日付にて湯川氏が2017-18年度ガバナーノミニ被指名者に確定したことを宣言されました。
- ・鈴木ガバナー補佐、樋口IM実行委員長より、IMのお礼状が届いておりますので回覧します。
- ・昨日、友添青少年奉仕委員長と地区RYLA委員会に出席してきました。

幹事報告 植田 清司 幹事

- ・本日、例会終了後に国際奉仕・青少年奉仕によるクラブフォーラムを開催致します。大勢のご参加をお待ちしております。
- ・次週、例会終了後に3月度定例理事会開催致します。

本日(3月13日)のプログラム

- ◆ 斉唱 「我等の生業」
- ◆ 献立 幕の内弁当
- ◆ 卓話 インニケーションスピーチ
加野 亮一 会員、岡部雄一郎 会員

<< 本日のBGM >>

「ヨーゼフ・シュトラウス：ポルカ《風車》作品57、外」

委員会報告

雑誌委員会 森永 健 委員

「ロータリーの友」3月号の紹介を致します。

《横書き》R I 会長がスリランカから初めて生まれました。当クラブとも関わりが深い国ですが、今回インターネットでスリランカを検索しますと、「スリランカ民主社会主義共和国」が正式名称となっています。

ほぼ同列のイデオロギーである共産主義国家の中国やロシアにはロータリークラブは存在しませんが、キューバも社会主義国として古くよりロータリークラブが存在しています。

国家の主義、名称に拘わらずその実態がロータリークラブの存否に影響を及ぼしていることが、今回の経緯で推し量ることが出来ました。

《縦書き》「友愛の広場」では複数の会員が異なる観点から、職業奉仕がロータリアンにとって最も重要であると説明しています。ひとつは他利優先の精神と実行は出会いと親睦を深め高い境地に導くとし、いまひとつは職業奉仕の実践が高い道徳水準を保ち、それがロータリーの魅力になり会員増強にも繋がると説明しています。

興味深い内容となっておりますので、是非ご一読ください。

出席報告

西山 潔 出席委員長

会員総数	55名	(33+22)名	
出席会員数	39名	(25+14)名	
出席率	82.98%		
ゲスト	2名	ビジター	3名
前回補正後	87.76%	前々回補正後	94.00%

スマイルボックス

青柳 紀 副SAA

神奈川RC 金野克佐様 本日もお世話になります。
横浜西RC 安藤竜一様 よろしくお祈りします。
横浜西RC 吉備カヨ様 本日はお世話になります。

山田正憲君 ①石川さん、本日の卓話、よろしくお祈りします。②一年の3分の2が過ぎました。残り3分の1！

富居利貞君 ご無沙汰しております。友添さん、約束出来なくてすみません。

月山 勇君 鼻はグズグズ、眼はグジュグジュ、口はペラペラ・・・花粉症に注意。ご自愛のトホホ。

山本 登君 親バカですが・・・息子が医学部6年間通して主席で卒業しました。国家試験も終わり、子供5人中4人が医師になりました。末娘も5年生に進級し、あと2年で親のDutyが一応終了する予定です。今後数年間に我が家に結婚ラッシュが来そうで、孫も増え、“パパ”から“ジージ”が固定しそうです。

伊東英紀君 本日、早退させて頂きます。

植田清司君 ①石川さん、本日の卓話、楽しみにしています。②先週は、所用の為、例会を欠席致しまして、すみませんでした。

江森国一君 ①石川さん、楽しい卓話、よろしくお祈り致します。②吉備さん、ようこそ。

西山 潔君 お誕生日のお祝い、ありがとうございます。

山本芳弘君 但野会員主催の「お寺でオペラ」、明後日の日曜日午後2時より私の所で開催致します。お時間のある方、是非お出掛け下さいませ。

長井 章君 石川さん、本日の卓話、楽しみにしています。よろしくお祈りします。

横溝 亘君 ①仕入れの為、3週間例会をお休みさせて頂きます。台湾への公式訪問の日程と費用が決定致しました。皆様のご参加お待ちしておりますので、よろしくお祈り致します。

茂木知子さん ～梅崎会員はスカートを着いていないダンサーがお好き～IMの際、バレエ公演を前に帰ろうとする梅崎会員に、「これから美しい女性のバレエがありますよ」とお褒めしたところ、「僕はスカートを着いていないバレエが好きだ」と言って帰って行かれました。梅崎会員、スカートを着いていない男性のバレエもありました。

友添辰哉君 山田会長、昨日はRYLAの最終打合せ、夜遅くまでお疲れ様でした。お手伝いの皆様、来週よろしくお祈りします。

佐藤勝彦君 石川さん、ご無理を言って恐縮です。卓話、よろしくお祈り致します。

但野真実子さん 河野さん、先日は素敵な会をありがとうございました。皆さんと仲良くなれて、とても楽しかったです。

青柳 紀君 ①昨日は18℃、今朝は8℃、三寒四温。もうすぐ春だね！恋をしませんか？森永さん、田口さん、河野じーじ、頑張ってください！②石川さん、アナログでアンティークな卓話、楽しみです！

3月6日	19件	48,500円
本年度累計		1,649,140円

卓話

「テレビが始まった頃の放送ウラ話<Part 2>」

卓話者 石川 正三 会員



国際奉仕・青少年奉仕クラブフォーラム開催

テーマ 「姉妹クラブとの今後について」 (国際奉仕)
「RYLAのプログラムについて」 (青少年奉仕)

3月6日(金)例会終了後に国際奉仕・青少年奉仕による第3回クラブフォーラムが開催されました。



2014-15年度 11月～2月 テーブルミーティング報告

【第1テーブルミーティング】

テーマ「ロータリーに思うこと」

平成27年2月19日(木) 「和膳 結」にて

テーブルマスター：田口健太郎 サブマスター：飯田 泰之

【参加者】17名

2月19日、第一テーブルミーティングが和膳「結」にて開催されました。参加者は17名を数え、テーマである「ロータリーに思うこと」について活発に議論されました。

- ・ロータリーの付き合いは、嘸めば嘸むほど味が出る。
- ・ロータリーは継続することに意義がある。
- ・会員とお付き合いする上で必要な点は、自分優先ではなく他者優先である。
- ・会員拡大も大切だが、減少しない方策をもっと考えても良いのではないかと。
- ・40周年事業を成功させなくてはならない。

【第2・第3テーブルミーティング】

テーマ「新年においてロータリーに思うこと」

平成27年1月22日(木) 「Bar Bricks」にて

第1テーブル マスター：田中龍太郎 サブマスター：山本 登

第2テーブル マスター：竹山 洋 サブマスター：澁谷 高弘

【参加者】18名

昭和28年にテレビの放送が始まって、60年余りになりますが、TVニュースが、ほぼ、現在の様な形になったのは、放送開始から7年後の昭和35年からです。

その前年に私がNHKに放送記者として入局した当時は、ラジオの全盛時代で、ラジオのニュースは、ほぼ毎正時に放送されていましたが、TVの方は一日2～3回10分程で、速報よりも話題物が主体の、のんびりしたものでした。

ラジオと違ってTVの取材には先ずカメラマンが必要、それにカメラ、フィルム、照明用機材などが必需品です。それで取材をしても、さらにフィルムを輸送し、現像、編集をしなければ放送に出せません。

現像所が東京にしかなかった時代は、地方で取材したニュースフィルムは、4日後に東京から全国に放送されるのが普通でした。

(TVニュースは「動く画像」が主体という概念が強く、現在の様に字幕で伝える手法が取り入れにくい雰囲気でした)

昭和37年に、TVが3軒に1台の普及率になり、TVニュースへの関心が、新聞並みになったことから、TVニュースの時間も大幅に増え、速報体制も徐々に整ってきました。

しかし、私の入局当時は、取材フィルムが、放送時間の寸前に入ってくると、半乾きのフィルムを地下の現像室から4階のスタジオまで、十数人が階段に並んで手渡しで運び込み、リールに掛けてようやく放送。ヤレヤレと思っているとフィルムが切れて画像は真っ白、という、マンガのような状態が毎日起きていたものです。

VTRの実用化は38年頃からで、これは画期的な変革でしたが、始めはテープの幅が10センチもあり、編集ができなかったものでした。

結局ニュースは「生放送」が主体でした。ニュースの時間や報道番組に出演する記者たちも、一発勝負のナマ放送に快い緊張を味わったものです。生放送ですから、外部からの出演者が、放送中、とんでもないことを言い出す恐れもあったため、例えば、カメラを天井に向けるなど『変な人対策』を練習したこともありました。

当時のカメラなどの放送機材は、技術革新が進んだ今の状況からは考えられない原始的なものでしたが、皆が工夫を凝らして、少しでも良い画像を提供しようと日々努力したことは、先駆者？としては、今や楽しい思い出です。

最後に、読み違い、書き違いの「訂正放送」についてお話ししましょう。

当時は、電話送稿で内勤の人が、それを書取る方法でしたから、ミスも多かったのでしょう。

「山口組の福祉部長を逮捕」という原稿が送られてきたことがありました。これを見た古参記者が「暴力団が福祉部を設けていることの方がニュースだ」と確かめたところ、実は、原稿の取り違いで、同じ音の「副支部長」と判ったという笑い話が目の前で起きたこともあります。

現在は記者自身が原稿をパソコンに打ち込み、電子メールで送稿しますので、電話送稿の時代よりミスは減った筈ですが、今の若い記者達やアナウンサーは字を知りませんので、今度はワードの変換ミスや漢字の読み違いが多く、責任者の新たな悩みになっている様です。

先輩としては誠に残念なことですが、後輩達が日々巻起す「訂正放送」は中々なくなるらない、というのが実情のようです。

統一テーマとして、「新年においてロータリーに思うこと」と決め、皆さんに意見をお聞きしました。

山田会長、植田幹事の意見としては、年度も半分終わり、残りは粛々とこなしていくとのことでした。

吉田会員は、次年度、江森年度での40周年事業の準備委員長としての抱負を語って下さいました。

入会して日の浅い会員からは、ロータリーについてまだよく分からないという意見があり、クラブとしてフォローしていく必要性を感じました。

何かあったらニコニコに寄付をするという習慣が最近薄れてきているように思うという意見がありました。

また、出席率の向上についての意見もありました。当クラブは昔100%の例会出席率を誇っていたと言うことで、これについては当時を知る方よりお話をお聞きすることが出来ました。

例会出席は確かに会員の義務ではありますが、仕事との兼ね合いもあり、多くの会員、そして特に最近入会した会員などは、勝手に分からず大いに悩ましいところだと思います。メーカーの徹底などクラブとしての永遠のテーマでもあります。

メンバー皆ロータリーについて真摯に考えており、外の寒さに負けない熱論が続き、時間はあっという間に過ぎてしまいました。

美味しい料理、飲み放題のお酒、そして洒落たお店と舞台は揃って、正月らしい楽しいテーブルミーティングとなりました。

最後に場所を提供して下さいました大河原会員、ありがとうございました。

《親睦委員会主催》新会員歓迎会開催

3月11日（水）、ランドマークタワー内『MANGIA MANJIA』にて、昨年10月に入会された古澤一憲会員の歓迎会が開催されました。



ロータリーニュース

ポリオ撲滅のため、世界最高峰に挑む

レイモンドエリア・ロータリークラブ（米国ニューハンプシャー）会員のジョー・プラットさんは、2012年4月、世界最高峰のエベレスト山に登頂しました。その目的は、ポリオ撲滅への募金。しかし、このチャレンジを決めた当初はポリオ撲滅の募金活動を主眼にはしていませんでした。それを一転させたのは、2011年にロータリー仲間のスティーブ・ピュダバーさんと参加したパキスタンでの予防接種活動でした。

ポリオ常在国の一つであるパキスタンでの予防接種活動に感動し、またポリオに感染した子どもたちを目の当たりにしたことで、エベレスト登山の目的を修正したプラットさん。ポリオに感染した人々への思いを込めたワッペンを身につけて登頂に挑もうと考えていたプラットさんに、ピュダバーさんがあるアイデアを出しました。それは、ワッペンをつけたところで誰も目にしないので、登山の目的をポリオ撲滅のための募金活動とすること。

最初の募金目標額は10,000ドルでしたが、標高の1フィートに1ドルの計算で、29,030ドルに引き上げられました。

23人のロシア人と1人のアメリカ人と共に挑んだ登頂は5週間にもおよびました。強い風と氷点下の気温に耐えながら登る途上で、これまでに同じチャレンジに挑み、命を落としたと思われる人の遺体も目にし、この冒険の過酷さを思い知らされたプラットさんは言います。結局、頂上に辿り着いたのは12名で、残りのメンバーは途中棄権しました。

（予防接種活動によって）健康になったパキスタンの子どもたち、そして彼らの健全な将来を心に思い浮かべながら、辛い道りを登り続けたプラットさん。見事エベレストを制覇しましたが、29,030ドルの目標を達成したのは、母国に帰ってからのことでした。

モンタナ州の6つのクラブに招かれ、それぞれのクラブでスピーチを行うようになりました。プラットさんのスピーチを聞いた一人、デイブレイク・カリスベル・ロータリークラブのマイケル・ヘインズさんは、エベレスト登頂にかかった50,000ドルの費用をすべて自分で賄ったというプラットさんの心意気に大きく感銘を受けたと振り返ります。

モンタナ州のクラブ訪問の結果、会員や地元の人たちから11,000ドルの寄付が寄せられ、ゲイツ財団からも23,000ドルの上乗せを受けることができました。結局、プラットさんの活動によって集まった募金は40,000ドルにも上ります。

プラットさんは次のように話します。

「これまで、図書館やさまざまな場所でもスピーチしてきました。一人しか聞き手がないという時もありましたが、私にとってはとても励みになる活動だと思っています」

Rotary News

次回《3月20日》の卓話予定

テーマ 「ゴッホが心酔した浮世絵の世界」

株伊東工務店 代表取締役社長 伊東淳子 様
（紹介者 佐藤 勝彦 会員）